

わくわく古代チャレンジ2019

とっておき埋文講座①



はじめに

当センターでは、毎年夏休みの期間に合わせて「わくわく古代チャレンジ事業」を実施しています。

「わくわく古代チャレンジ事業」は事前応募を必要とする「ふるさと考古学教室」「こども考古学クラブ」と、当センターのホールと会議室で随時学習ができる「まいぶん研究室」があります。どの活動も埋蔵文化財に関する体験活動や学習をとおして、古代の人々の知恵や暮らしにふれ、考古学や文化財への関心を高めたり、夏休みの自由研究のサポートを行ったりするものです。

以下、今年度の取組について紹介します。

ふるさと考古学教室

7月29日(月)～8月27日(火)の11日間に全7教室、21コースで行いました。内容は「刀鍛冶を体験しよう(ペーパーナイフづくり)」「縄文の文様で飾ろう(縄文小物入れ・縄文プレートづくり)」「古代アジロ編み・漆塗りを体験しよう(コースターづくり)」「古代の鏡の鑄造を体験しよう(錫鏡づくり)」「大型まが玉づくりを体験しよう(滑石大型まが玉づくり)」「ガラスの装飾品を作ろう(ガラス玉づくり)」「藍染を体験しよう(藍染エコバッグづくり)」です。

今年度は、各教室の募集合計定員310組に対し、のべ531組の応募がありました。中でも「刀鍛冶を体験しよう」「古代の鏡の鑄造を体験しよう」の教室では倍率が4倍を超えるコースがあり、人気の体験となっています。

教室は保護者と児童と一緒に活動します。「ガラスの装飾品を作ろう」の

教室では、火を扱うことから安全に協力して作業することが前提となります。保護者と児童はお互いに声をかけあい、安全に世界で一つだけのガラス玉を製作していました。



体験者のアンケートから

教室終了後に回収したアンケートでは、すべての教室で「楽しかった」「勉強になった」という回答を多くいただきました。参加者のみなさんが教室に満足して下さったことが伺えます。

各教室の感想をいくつかご紹介します。

○刀鍛冶



・鉄を熱して叩くというシンプルな動作なのに息を合わせるのが意外と難しいことが分かり、勉強になりました。
・他では体験することのできない貴重な体験をすることができてよかったです。

○ガラス玉

・難しかったけどきれいなガラス玉を作ることができてうれしかったです。
・ガラス玉の作業は簡単すぎないところが魅力だと思いました。



○縄文小物入れ



・縄文時代の歴史に触れることができ良い経験になりました。
・粘土のひもを積む作業が難しかったけど楽しかったです。

○アジロ・漆



・家では触れることのできないものを知ることができて楽しかったです。
・アジロ編みは難しく大変だったけど、出来上がったときはとてもうれしかったです。

○錫鏡

・一つ作るのにもとても時間がかかり、昔の人のすごさを感じました。
・型作りから夢中で取り組むことができました。



○大型まが玉



・昔の人の苦勞を感じることができました。
・穴が貫通したときとても達成感がありました。

○藍染



・2回染めることで1回目の経験を活かすことができてよかったです。
・親子で楽しめて素敵な作品を作ることができました。

こども考古学クラブ

今年度のこども考古学クラブも昨年度に引き続き「目指せ未来の考古学者!!」をキャッチフレーズに、小学校6年生限定で募集しました。より歴史について学習したいという意欲をもった児童7名が参加し、8月19・20・21日の3日間昼食持参で午前は歴史や文化財についての学習、午後は「土器の実測」「土器の拓本」「土器の復元」の体験を行いました。



午前の学習は、学校で学んでいる社会科の歴史学習をもとに、富山県の遺跡や出土品と関連させたセンターオリジナルのクイズ「考古学クラブ検定」を中心に進めました。出題されたクイズに対して答える際は、児童自身が学校で学んだことや、本を読んで知り得た知識を駆使して、真剣に考えて理由を述べている姿が多く見られました。



午後の体験は考古学を専攻しないといけない体験で児童たちは興味深く体験に取り組んでいました。

中身の濃い充実した3日間になりました。



まいぶん研究室

当センターのホールと会議室を利用して児童たちの自由研究の参考となるような研究室を設置しました。

ホールには、市町村・校区別の遺跡地図と「タッチ・ザ・DOKI」を連携させて調べられるコーナーと土器の実測に使う道具に触れられるコーナーを設置しました。

会議室には、文化庁の「記念物100年」の事業に参加し、パネル展示を行いました。パネルでは、代表的な「史跡」「名勝」「天然記念物」やそれに関わる各地の取り組みを紹介しました。

終わりに

「展示の話も分かりやすかったです」「親も子も勉強になりました」「来年も是非参加したいです」など、アンケートには多くの意見が寄せられました。参加されたほとんどの方が大いに満足したと回答されました。今後も歴史や考古学に興味をもてるような体験や講座を企画運営していきたいと考えています。

(米田 大介)